



日本国憲法の草案作成に携わり、東北電力初代会長を務めた白洲次郎が山形市蔵王温泉スキー場に所有していた山荘「ヒュッテ・ヤレン」の活用策を探るミニフォーラムが10日、同市の蔵王体育館で開かれた。

「白洲山荘」財産に

地元の蔵王で活用探るフォーラム

同山荘は、1951(昭和26)〜59年に東北電力会長を務めた白洲が建てた。木造2階建てで、2階に玄関とカウンター付きの台所兼居間、1階に小さな寝室3部屋などがある。創建当時は1階が仕切られておらず、暖炉のあるリビングになっていたという。

近年はほとんど使われずに老朽化が進んでいる。東京のNPO法人「元氣・まちネット」代表理事で戸沢村出身の矢口正武さん(64)「東京都渋谷区」が、仲間の建築家とともに建物を調査するなど復元・保存に乗り出した。

フォーラムには、地元有志による「白洲次郎を語る山形の会」や仙台市の「次郎倶楽部」、蔵王温泉

白洲次郎が蔵王に建てた山荘の保存・活用などについて意見を交わしたミニフォーラム

山形市・蔵王体育館

募金活動を展開 ■ 温泉を生かす

の関係者など約60人が参加。矢口さんは内部の一般公開の有無によって3段階の改修プランを示し、「保存・活用を目的に募金活動を展開する」と語った。建築家らが当時としてはユニークな仕様など調査結果を報告した後、意見交換した。

現在の山荘所有者で、東京都練馬区で大泉スワロー体育クラブを経営する三宅泉さん(53)は「日本で初めて民間のスポーツクラブを立ち上げた父が、スキー教室の子どもたちの宿泊場所として蔵王の山荘を取得した。長く山形の財産として残ってくれたらと思っっている」と話した。

参加者からは「素晴らしい温泉を生かすことが蔵王の発展につながる。山荘の保存は温泉地の魅力を高める」「白洲次郎の山荘というインパクトがあり建物の保存状態も良い。文化財としての価値は高い」「紅葉や新緑を眺めながらお茶が飲めるなど周りの環境を生かし、蔵王全体の景観づくりにも広げてはどうか」などの意見が出た。